乳児の身体発達と親子の交流を方向付ける環境の変化をめぐって

－精神分析的視座からの検討－

武田信子（東京学芸大学）

科研費 KAKENHI

現在の日本の乳児は、身体とケアする人との関係性のなかで、
どのような経験をしているのだろうか。
その経験を、その後の精神発達という観点から、心理臨床はどう考える必要があるだろうか。

1 なぜ、いま乳児の身体なのか

精神分析理論では、乳児期の心の形成は、身体を媒介とした養育者との情緒的・身体的交流のなかで進むと考えられてきた。

抱かれる・触れられる・支えられる・姿勢やリズムを共有する――これらは乳児が自己と他者を経験していく過程に関わる。

2010年代以降、発表者の周囲で、長年乳児親子に関わる専門職から「以前とは違うのではないか」という声が聞かれるようになった。

それは一部の専門職の印象なのか。
それとも、
複数の現場で共有されている認識なのか。

2 乳児発達実感調査

目的

専門職が日常の実践のなかで感じている乳児発達上の変化を探索的に調べ、その認識を可視化する。

多職種専門職27名へのヒアリング →
観察項目整理 →
全国オンライン質問紙 →
探索的分析

質問紙 634名 ／ 有効回答 629名
分析対象 408名

分析対象：専門職経験5年以上、乳児との接触頻度が一定以上。

本調査は、乳児の発達そのものが客観的に変化したことを証明する調査ではない。

3 専門職は何を感じているのか

63.2%　**近年の乳児に発達上の変化を「強く感じる」「少し感じる」**

分析対象 N＝408

「今、赤ちゃんは？」
項目別「いる／増えている」回答割合



※各項目について、回答者が「いる」または「増えている」と回答した割合。
各徴候の増加を直接示すものではない。

4 「身体の様相」から「乳児の経験」へ



この身体で、乳児は何を経験しているのだろうか。

※写真は「異常」「正常」の証拠ではなく、
乳児の身体を心理臨床の問いとして見るための素材である。

5 なぜ、心理臨床の問いなのか

Winnicott
holding／促進的環境――乳児の心身の発達を、乳児だけの内部で完結するものとして捉えない。

Stern
乳児の主観的経験・自己感・情動的交流――身体感覚、情動、他者との相互作用から自己と他者の経験が組織化される。

Bowlby
attachment――養育者との近接・保護の経験を、他者との関係形成の過程として捉える。

Brazelton
乳児を外界と積極的に関わる能力を持った主体」として捉える。

6 身体とこころを同時に見る

藤吉晴美
「赤ちゃん動作法」は、乳児の身体・動作を心理的側面と関連づけて捉える国内の臨床心理学的実践である。
身体を運動発達だけの問題として見ない。しかし、身体から特定の心理状態を短絡的に推定することもしない。

7 「時代性」という視座

小倉清（2020）
子どもに現れる現象を既成の枠組みだけに収めず、その子どもが生きる時代のなかで問い直す。日常生活で観察される変化にも目を向ける。

「何か新しい見方、視点」
現在の乳児の身体的様相も、個々の乳児・親・養育技術だけの問題として考えてよいのだろうか。

8 環境の変化から考える

時代・社会・文化・生活環境
↓
乳児を取り巻く養育環境
生活・家族・情報・技術など
↓
養育者 ⇄ 乳児
身体的交流・情緒的交流
↓
身体感覚・情動・関係経験 → 自己／他者についての経験 → 精神発達

※矢印は本研究で実証された因果関係を意味せず、今後検討すべき仮説的な問いを示す。

9 本研究が示したこと／示していないこと

示したこと
経験ある専門職の多くが、現在関わる乳児に発達上の変化を感じていた。
その認識は単一の徴候に限られず、複数の身体的様相に及んでいた。

示していないこと
・乳児の身体発達そのものが客観的・歴史的に変化したこと
・現在の養育環境が、その変化の原因であること
・特定の身体的様相が、特定の心理状態や後の精神病理をもたらすこと

それでも、問う必要がある
身体を心理臨床の対象としてどう見るか。
現在の日本の乳児は、身体とケアする人との関係性のなかで、どのような経験をしているのだろうか。
乳児親子を取り巻く環境が変化するなかで、身体的・情緒的交流はどのように変容しているのだろうか。
その経験を、その後の精神発達という観点から、心理臨床はどう考える必要があるだろうか。

研究倫理・謝辞
2023–2025年度 文部科学省科研費 基盤研究C（23K02280）
「コロナ禍を含む近年の乳児発達の『おかしさ』実態調査：問題の所在と機序の探索的研究」（代表 武田信子）の一環。
東京学芸大学研究倫理審査委員会承認（承認番号698）。利益相反なし。分担研究者・研究協力者・分析協力者に感謝する。

主要文献

Bowlby, J. (1969). Attachment and Loss: Vol.1. Attachment.
小倉清（2020）『子どもの危機にどう応えるか―時代性と精神科臨床』岩崎学術出版社
Stern, D.N. (1985). The Interpersonal World of the Infant.
Winnicott, D.W.（大矢泰士訳, 2022）『完訳 成熟過程と促進的環境』岩崎学術出版社
藤吉晴美（2006）「臨床動作法を用いた赤ちゃんへの心理援助」『臨床心理学』6(6), 767–772.
武田信子ほか（2026）「乳児発達に関する専門職の認識―多職種現場専門職を対象とした探索的質問紙調査」『子どものからだ研究』3, 47–65.

科研報告会動画

科研ウェブサイト

キーワード：乳児発達、親子の交流、養育環境の変化